

2026 年 9 月 1 日

各位

株式会社CAICA DIGITAL
 代表取締役社長 鈴木 伸
 (コード番号：2315 東証スタンダード)
 問合せ先：
 代表取締役副社長 山口 健治
 TEL 03-5657-3000 (代表)

ステーブルコイン基盤フェーズ3完了 ～M2M 基盤と組み合わせた商用サービスの提供開始～



株式会社 CAICA DIGITAL (コード番号：2315、東証スタンダード、「以下、当社」) は、「ステーブルコイン基盤」の PoC (概念実証) フェーズ 3 (7～8 月) が完了したことをお知らせします。フェーズ 3 では、リカバリ機能・発行体管理 UI の整備を完了し、M2M 基盤との本格的な統合を実現しました。SC 基盤および M2M 基盤ともに商用化フェーズへ移行します。

PHASE 3 COMPLETION

フェーズ3完了：商用化に向けた全機能を実装

2026 年 3 月より開始したステーブルコイン基盤 (以下、「SC 基盤」) PoC は、フェーズ 1 (Web2 的 UI・基本送金)、フェーズ 2 (M2M 自動決済・NFT/VC 連携) を経て、フェーズ 3 の全項目が完了しました。発行体管理 UI (Stablecoin Console) の整備、マルチデバイスリカバリ機能、AML/トラベルルール対応を含む包括的なセキュリティ強化を実現しています。

フェーズ	実施内容	主な成果	状況
フェーズ1 3～4 月	zkSync Era 選定・SCA 開発・独自 SC「M2MJPY」発行・テストネット決済	L2 上での決済動作確認。Web2 ライクな UI で送金成功	✓完了
フェーズ2 5～6 月	ネイティブ AA 実装・Paymaster・セッションキー・NFT データ購入・VC 発行・M2M 自動決済	モバイルアプリから L2 決済成功。NFT→VC 発行まで一貫フロー実現。自動決済トリガー実装	✓完了
フェーズ3 7～8 月	リカバリ機能・セキュリティ監査・発行体管理 UI 整備・AML/トラベルルール対応	商用化に向けた全機能実装完了。SC 基盤・M2M 基盤の統合完成	☑ 今回完了

実装画面



発行体管理UI（Stablecoin Console）－ウォレット凍結機能
裁判所命令に基づくウォレット凍結・AML対応



ユーザー側UI（M2M Wallet）－リカバリ機能
鍵紛失・盗難時のGuardian承認によるリカバリ

SERVICE MODEL

3つのサービスモデルで幅広いニーズに対応

SC 基盤フェーズ 3 完了に伴い、M2M 基盤と SC 基盤を組み合わせた 3 種類の商用サービスモデルを定義しました。導入規模・事業フェーズ・SC 発行意向に応じて最適なモデルをご選択いただけます。いずれのモデルも顧客ビジネスの成長に連動したプロフィットシェア型オプションをご用意しています。

CAICA DIGITAL — SERVICE MODEL

M2M基盤 & SC基盤 3サービスモデル

SC基盤フェーズ3完了に伴うビジネス展開方針 — 2026年8月

MODEL ①

M2M基盤のみ
(DID/VC・情報NFT)

最も導入しやすいモデル
既存SC不要

導入費用 & 利用料

- 利用料（月額）
- カスタマイズ料

収益源

- データ販売収益

MODEL ②

M2M基盤+他社SC
(USDC / JPYSCなど)

他社SC即活用モデル
SC発行なし

導入費用 & 利用料

- 利用料（月額）
- SC接続開発料

収益源

- データ販売収益

MODEL ③

M2M基盤+SC基盤
(顧客独自発行SC)

最大収益モデル
顧客独自SC発行

導入費用 & 利用料

- 利用料（月額）
- カスタマイズ料

収益源

- データ販売+預かり資産運用収益
+手数料

+各モデルにプロフィットシェア型オプションを設定可能（顧客ビジネス規模連動）

プロフィットシェア型オプション：顧客の初期負担や月額利用料を抑えながらビジネス成長に応じて収益を共有するモデルも設定可能です。

TARGET USECASE BY INDUSTRY

対象顧客業界別ユースケース

M2M 基盤・SC 基盤は業種を問わず幅広い企業に導入いただけます。各業界における代表的なユースケースは以下の通りです。

 電子マネー事業者 / 新規SC参入事業者 DID/VC 本人確認VC・購買行動VC・デバイス認証VCによる情報NFT販売 M2M SC 車両・家電・スマートホームのウォレットをPayアプリで一元管理し自動精算	 小売業者 DID/VC 商品鮮度VC・産地証明VC・来客属性VCの情報NFT化・収益化 M2M SC 棚前精算・駐車場自動精算・EV充電料金M2M決済でレジ待ち解消
 MaaS事業者 DID/VC 乗車履歴VC・移動パターンVC・運転者資格VCの情報NFT販売 M2M SC 電車→バス→タクシーのマルチモーダル移動を自動按分決済	 物流事業者 DID/VC 温度管理VC・配送完了VC・振動衝撃VCで品質証明を自動化 M2M SC 配達完了VCと連動したトラックウォレット→荷主ウォレット自動精算
 損害保険事業者 DID/VC 安全運転VC・走行距離VCでテレマティクス保険の引受精度を向上 M2M SC PAYD型保険料自動精算・損害査定VC連動自動補償	 電力事業者 DID/VC 発電量VC→カーボンクレジット転換・グリーン電力証明NFT化 M2M SC 太陽光P2P自動売買・EV充電料金M2M精算・VPP自動精算

上記の他、スマートシティ・自治体向けには、自治体独自 SC（地域通貨）発行による補助金自動配布・地域内精算、都市インフラデータの情報 NFT 化による新財政収入の創出なども可能です。

SC 基盤・M2M 基盤を活用する顧客のメリット

当社の SC 基盤・M2M 基盤を活用することで、顧客企業は以下の価値を自社ユーザーに提供できます。

DID

唯一無二のデジタルIDをユーザーに提供

分散型ID（DID）により、ユーザーは自分だけの唯一無二のIDを所有・管理できます。なりすましや改ざんを暗号学的に防止し、サービス間のID連携を可能にします。

VC

証明書・アクセス権をユーザーに発行

検証可能証明書（VC）により、本人確認・資格・運転履歴・購買行動などの証明書をユーザーのウォレットに安全に発行。顧客ビジネスの付加価値と信頼性を大幅に向上します。

情報 NFT

ユーザーに新たなデータ収益機会を提供

IoTデバイスが収集したデータをNFTとして所有・売買できる仕組みにより、ユーザー自身がデータから収益を得られる新たな体験を提供します。顧客のユーザー満足度・ロイヤリティの向上に直結します。

統合効果

顧客のユーザー満足度・ロイヤリティを高める

DID・VC・情報NFTの3つが揃うことで、ユーザーに「唯一のID」「証明書」「収益機会」を一体で提供でき、顧客のユーザー満足度・ロイヤリティを大幅に高めることができます。

Stablecoin × M2M

モノがお金を払い合う——新たな決済インフラの主導権を握る

モノ（IoTデバイス）がDIDとウォレットを持つことで、機械同士が人の手なしに自動でSC決済を行う「M2M経済圏」を実現します。今後拡大が見込まれるステーブルコイン事業において、M2M決済という強力な差別化要因を持って参入することができます。

勝者がまだ決まっていないステーブルコイン市場に、今、優位性を持った戦略で参入すれば——新たな決済インフラを握る十分なチャンスがあります。

IoT 端末もワンストップで提供

M2M 基盤・SC 基盤のご利用に際し、2025 年 10 月に当社が子会社化した IoT 端末専門子会社「株式会社ネクス」より、5G RedCap 対応端末をはじめとする IoT 通信デバイスのご提供も可能です。ソフトウェア基盤と通信デバイスをまとめてご相談いただけます。

5G RedCap

UNX-35GL — 5G RedCap対応 USB通信 Dongle

- フルスペック5GとNB-IoTの中間帯域——低コスト・低消費電力でリアルタイム制御を実現
- 有線LANポート標準搭載・Dual SIM対応・ルーター／ブリッジ／モデム 3モード切替
- ローカル5G・プライベートLTE対応／CE・FCC・UKCA国際認証取得
- スマート工場・物流DX・医療・スマートシティ等の産業IoTに対応

詳細はネクス公式サイトへ →

CONTACT

M2M基盤・SC基盤の活用にご興味のある企業様へ

PoC実証が完了し、商用サービスの提供を開始します。ご自身のビジネスへの導入可能性・サービスモデルのご相談など、お気軽にお問い合わせください。

info-02@caica.jp へお問い合わせ

M2M基盤・ステーブルコイン基盤の利用に関心のある企業様からのご連絡をお待ちしております

【ご留意事項】

本プレスリリースに記載の内容には、将来の事業展開に関する予測・計画が含まれています。これらは作成時点における当社の判断・見通しであり、実際の結果が異なる可能性があります。商用展開については、法規制への対応、提携先企業との協業進展、ならびに市場環境等を踏まえた上で段階的に進めてまいります。したがって、現時点で具体的な収益寄与時期は未定です。なお、本件が当社の2026年10月期連結業績に与える影響につきましては、現時点では軽微であると見込んでおります。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上